

令和5年7月13日(木)

「先手あいさつ」と「語先後礼」について

喜入中学校の皆さんは、「先手あいさつ」を知っていますか。「先手あいさつ」とは相手からあいさつされる前に、こちらからあいさつすることです。先にあいさつされた方は嬉しくなります。相手を嬉しくさせられるなんて素晴らしいですね。「先手あいさつ」で相手を嬉しくさせることができたなら、あなたの勝ちです。人として喜ばれる人になったのですから。

「先手必勝」と言われます。どうせあいさつするのだったら、先にしましょう。相手を嬉しくさせましょう。それだけで「いい人」にもなれます。

相手があいさつしているのに、無視するのは最悪です。する側も、される側も最悪です。気分が悪くなります。わざとではなくても気分は悪くなります。しかし、ここからが大切なポイントです。あいさつは返ってこなくてもした方がいいのです。それは、あいさつすれば、後腐れがないからです。返さなかったら後腐れがあるのかもしれないかもしれません。しかし、こちら側はあいさつしているので問題がありません。負い目はありません。返ってこなくても、相手を恨むことはありません。所詮、相手はそんな人なのです。ですから、相手を嬉しくさせるだけでいいのです。

また、本校では、どの授業でも、授業の始まりと終わりのあいさつは「語先後礼」です。「語先後礼」とは、あいさつの言葉が先、礼(お辞儀)が後、という礼儀作法です。私は以前、ある銀行のカウンターの中に掲示してある「語先後礼」を見たことがあります。ビジネスマナーとしても「語先後礼」が定着していると感じました。朝夕のあいさつだけでなく、どの授業でも、相手(先生)の顔(目)をしっかりと見て「お願いします」と言い、言い終わってから、きちんと礼をしましょう。どの授業でも「語先後礼」であれば、皆さんの品格・品位が際立ち、周りからも感じよく見えることでしょう。